

農政新時代の検討項目

農事組合法人・たんぼ野菜ネットワーク

事務局長兼常勤理事

NPO法人・全国有機農業推進協議会

事務局長 下山久信

I. 生産資材(飼料・包装資材・園芸資材)・農業機械の値下げ、農薬・化学肥料使用量の削減

(1) ダンボール流通からコンテナ出荷への転換

資料 No.1 (5ページ)

(2) 農薬・化学肥料の投入を前提とする施肥・防除基準(マニュアル)からの転換

資料 No.2 (6~8ページ)

ア 単位JA・全農県本部・県農林振興センター・農薬・肥料メーカーが編集

資料 No.3 (9~10ページ)

イ 農家組合員に対する注意書配布・推進

資料 No.4 (11ページ)

ロ オーガニック・エコ農業の拡大により、農薬・化学肥料の使用量を減少させる。平成18年有機農業推進法

アメリカのオーガニックの取扱額 4兆円・日本は1300億
アメリカ毎年10%以上の伸び・フランス面積125万ha

(3) 肥料の種類集約化

資料 No.5 (12~13ページ)

(4) 資材店の価格よりJAの経済センターの価格は割高である。

資料 No.6 (14ページ)

(5) 世界の種子・農業産業の動き

資料No.7 (15ページ)

(ア) 遺伝子組み換え種子と農薬

(イ) 日本の種苗会社が外国資本に買収される。

(6) 農業機械の値下げ

ア. ニ社による独占価格

イ. 外国に輸出する場合の価格は安いのだろうか?

ウ. 農家はほとんどJAから購入する。

故障・修理・アフターサービスに素早く対応できる。

エ. 韓国製の農業機械が安いという話をよく聞くが、アフターサービスは迅速にできるのか。

オ. 農業機械希望小売価格表

資料No.8 (16ページ)

II. 流通・加工の業界構造の石塚立

安定取引を行うことができる

(1) 野菜・果樹作付面積の推移

資料No.9 (17ページ)

(2) 「卸売市場整備方針」の公表 1月14日

資料No.10 (18~19ページ)

ア。現在の青果物との関係において
時代遅れ。 (流通)

イ。地産・地消

全国の直売所 23560カ所(24年度)
8400億円(総販売高)

ウ。契約・産直・インターネット取引の増加

(3) 卸売市場の手数料問題 資料 No.11(20ページ)

委託手数料率が弾力化された平成21年
4月以降、変更はほとんど実施されず存在。

生産者だけが手数料を支払っている。

利用者の負担はゼロ

(4) 透明・公正な価格の形成

ア。卸売市場 → 相対取引・大手小売店
がほとんど価格を決め
しまう。

イ。青果物規格も細かすぎず無馬が多い。

ウ。流通段階が多すぎ、過当競争。
資料 No.12 (21ページ)

生産者が安定的に販売することはできる。

エ. 卸売市場中への出荷では、価格形成
できる。

資料 No.13 (22ページ)

オ. 食品の安全性(オーガニック・エコ農産物)
や鮮度に対する志向も強くなり傾向にある
など、消費者の食品に対するニーズは多様化
している。

カ. 2020年のオリンピック・パラリンピックに向け
オーガニック・エコ農業の取組増が要求される。

(5) 野菜価格安定制度の問題点

資料 No.14

(23ページ)

(1) 対象者が限定されている。

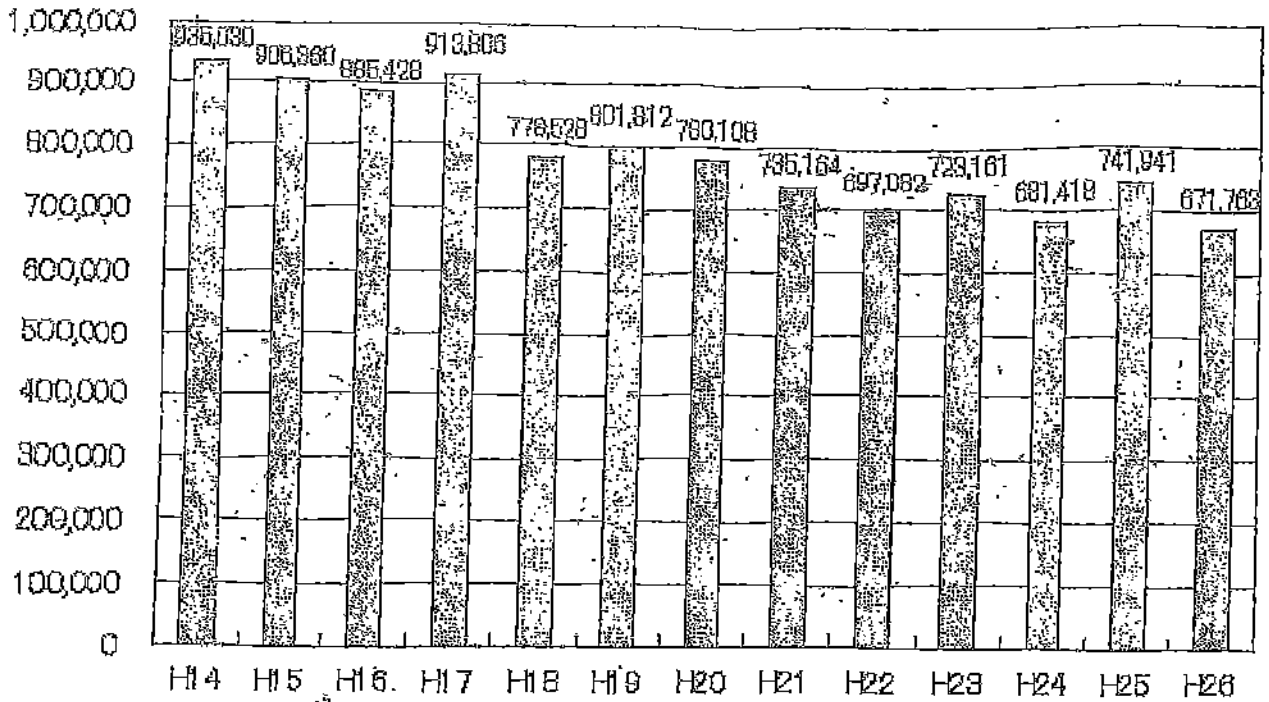
(2) 卸売市場出荷が前提になっている。

(3) 単作型の産地 → 連作障害・病虫害の
発生 → 化学合成農薬の使用量増

(4) 今検討されている収入保険との関係は？

<全農段ボール箱取扱実績>

単位:千ケース



ダンボールの価格の比較

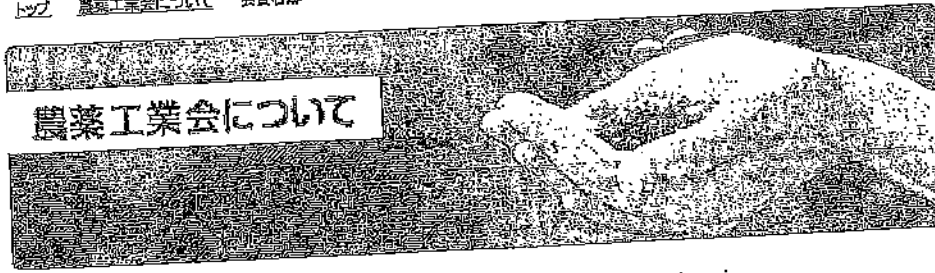
野菜ネットワーク(税込)	JA
10Kダンボール 59円	66円
大根(葉付き) 95円	136円
大の小(レタス) 105円	139円

ネットワーク コンテナ 使用料 大 50円
 // 中 30円

農業工業会

Japan Crop Protection Association

トップ 農業工業会について 会員名簿



農業工業会について

事業目的

組織

会員名簿

行動規範

アクセス

農業工業会ニュース

会員名簿 (平成28年1月1日現在)

正会員一覧はこちら

賛助会員一覧はこちら

正会員 (39社) - 五十音順 -

- アグロ・カネショウ株式会社
- 旭化学工業株式会社
- アリスタフサイエンス株式会社
- 石原産業株式会社
- 井筒屋化学産業株式会社
- イハラケミカル工業株式会社
- 株式会社エス・ディー・エス バイオテック
- OATアグリオ株式会社
- 大内新理化学工業株式会社

- 南海化学株式会社
- 日産化学工業株式会社
- 日本カーリット株式会社
- 日本化薬株式会社
- 日本管産株式会社
- 日本農薬株式会社
- 日本モンサント株式会社

- 科研製薬株式会社
- 協友アグリ株式会社
- 協和銅器バイオ株式会社
- クミアイ化学工業株式会社
- 株式会社クレハ

- バイエル クロップサイエンス株式会社
- BASFジャパン株式会社
- フマキラー株式会社
- ホクサン株式会社
- 北興化学工業株式会社
- 保土谷化学工業株式会社
- 保土谷IPL株式会社

- サンケイ化学株式会社
- 橘越化学工業株式会社
- シンジエンタ ジャパン株式会社
- 住友化学株式会社

- 丸和バイオケミカル株式会社
- 三井化学アグロ株式会社
- Meiji Seika ファルマ株式会社
- 株式会社 理研グリーン

- ダウ・ケミカル日本株式会社
- デュポン株式会社
- デンカ株式会社

賛助会員 (36社) - 五十音順 -

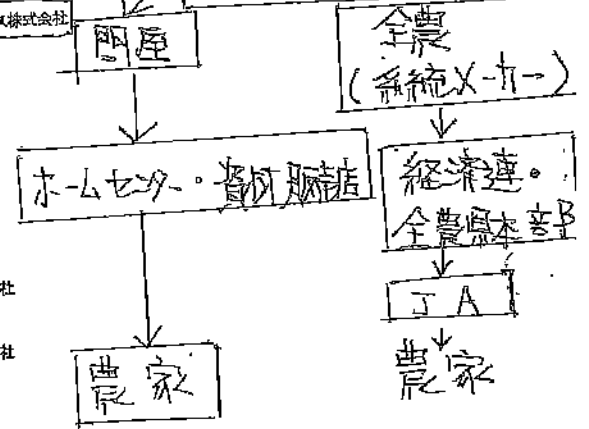
- アダマ・ジャパン株式会社
- 石原バイオサイエンス株式会社
- 出光興産株式会社
- エフエムシーケミカルズ株式会社

- ナフセサンバイオ株式会社
- 日本乳化剤株式会社
- ニューファム株式会社

農業原体メーカー

1. モンサント
2. バイエル
3. シンジエンタ(ノバルティス)
4. ダウ・ケミカル
5. デュポン

農業製造メーカー



ページトップへ

花王株式会社
クニミネ工業株式会社
小西政農薬資材株式会社

白元アース株式会社
ハヤシ アグロサイエンス株式会社
フライングアグロケミカルズ(株)デット
長土谷アグロテック株式会社



三明ケミカル株式会社
サンアグロ株式会社
GHC株式会社
シバカム・ジャパン株式会社
白石カルシウム株式会社
住化グリーン株式会社
住商アグロインターナショナル株式会社
住友化学園芸株式会社
金鳥グリーンリソース株式会社
双日株式会社



丸善薬品産業株式会社
丸紅株式会社
三益産業株式会社
三井物産株式会社
三菱商事株式会社



ユービーエルジャパン株式会社



レインボー薬品株式会社
ロンザジャパン株式会社



大日本除虫菊株式会社
竹本油脂株式会社
デ サンゴス(在日代表事務所)
東邦化学工業株式会社

ページTOP

27年度 3358億円

平成27農業年度出荷実績

単位:kg

《数量》

		前農業年度	平成27農業年度	前年比(%)
水稲	殺虫剤	13,894	11,682	84.1
	殺菌剤	6,878	6,547	95.2
	殺虫殺菌剤	15,631	18,005	94.8
	除草剤	31,912	30,028	94.1
	小計	68,315	63,261	92.6
果樹	殺虫剤	8,405	7,657	91.1
	殺菌剤	6,303	6,228	98.8
	殺虫殺菌剤	502	518	103.2
	除草剤	4,253	4,270	100.4
	小計	19,463	18,673	95.9
野菜・畑作	殺虫剤	42,974	40,148	93.4
	殺菌剤	25,049	24,164	96.5
	殺虫殺菌剤	2,280	2,371	104.0
	除草剤	10,691	10,913	102.1
	小計	80,994	77,596	95.8
その他	殺虫剤	3,504	3,571	102.0
	殺菌剤	984	1,013	102.9
	殺虫殺菌剤	2,300	2,438	106.0
	除草剤	14,604	15,167	103.8
	小計	21,388	22,189	103.7
中計	殺虫剤	68,774	63,058	91.7
	殺菌剤	39,214	37,852	96.8
	殺虫殺菌剤	20,913	20,332	97.2
	除草剤	61,460	60,378	98.2
	小計	190,361	181,721	95.5
分類ナシ	植物調整剤	1,553	1,888	121.6
	殺菌剤	27	30	111.1
	殺虫剤	3,528	3,377	95.7
	殺菌剤	54	83	153.7
	小計	5,162	4,858	94.1
合計		195,524	186,578	95.4

《金額》

単位:100万円

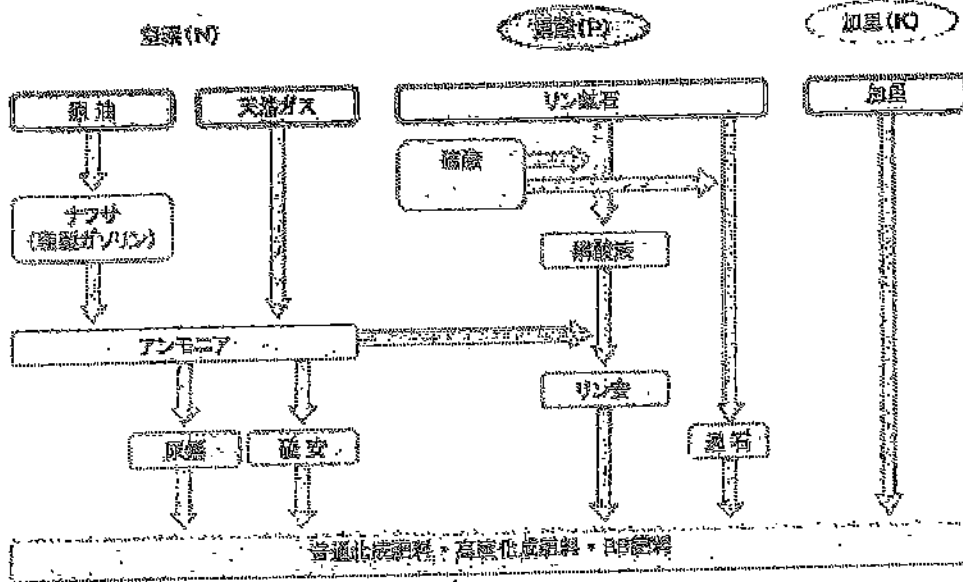
		前農業年度	平成27農業年度	前年比(%)
水稲	殺虫剤	14,519	12,886	88.8
	殺菌剤	10,925	10,431	95.5
	殺虫殺菌剤	33,274	32,017	96.2
	除草剤	67,735	64,829	95.7
	小計	126,453	120,172	95.0
果樹	殺虫剤	22,700	22,087	97.3
	殺菌剤	19,510	19,719	101.1
	殺虫殺菌剤	350	342	97.7
	除草剤	7,691	7,858	102.1
	小計	50,250	50,014	99.5
野菜・畑作	殺虫剤	58,428	56,564	96.8
	殺菌剤	39,048	38,830	99.4
	殺虫殺菌剤	2,621	2,772	105.8
	除草剤	20,617	21,050	102.1
	小計	120,714	119,238	98.8
その他	殺虫剤	6,900	6,932	100.4
	殺菌剤	5,451	5,927	108.9
	殺虫殺菌剤	1,669	1,713	102.5
	除草剤	23,007	22,220	96.6
	小計	37,027	36,802	99.4
中計	殺虫剤	102,547	98,598	96.1
	殺菌剤	74,934	74,917	100.0
	殺虫殺菌剤	37,814	36,844	97.2
	除草剤	118,050	115,955	97.4
	小計	334,445	326,225	97.5
分類ナシ	植物調整剤	5,348	5,075	94.9
	殺菌剤	40	38	95.0
	殺虫剤	3,008	3,020	100.4
	殺菌剤	1,150	1,512	131.5
	小計	9,547	9,645	101.0
合計		343,991	336,869	97.9

肥料は作物の栄養を補い、我が国の食料生産にとって欠かすことのできない重要な資材です。また、肥料の主要成分は窒素・リン酸・加里ですが、そのもととなる原料のほとんどを海外からの輸入に頼っています。JA全農は、自ら肥料原料を輸入し、肥料の安定供給や肥料の価格の安定に貢献しています。

安全・安心、美味しい作物づくりには健康な土が欠かせません。JA全農では土壌診断にもとづく効率的な施肥を進めています。

また、JA全農は省力・低コストに資する技術・資材の開発や普及をすすめ、トータルの施肥コスト低減に取り組んでいます。

肥料の安定供給



主要化学肥料の製造工程

